

神奈川大学21世紀COEプログラム事業推進担当者の廣田教授は、本プログラム研究活動の一環として行っている、デジタル資料による身体技法分析の取組みに関する報告を韓国 高麗大学校民族文化研究院民俗学研究所主催の学会においておこなった。

「2006 国際学術大会 18世紀東アジアの公演文化」

開催日時：2006年2月24日～25日

開催場所：高麗大学校民族文化研究院

発表者：廣田 律子

発表タイトル：「デジタル技術による東アジア芸能比較研究試論」

主催：高麗大学校民族文化研究院 民俗学研究所

貴重資料の紹介

Baltzer, F. *Die Architektur der Kultbauten Japans*
「日本の神社建築」(Berlin:Ernest, 1907)



Scenes From Open Air in Japan(photographed by W.K.BURTON, plates by K.OGAWA, text by J.MURDOCH, 1893(明治26年))

貴重資料の紹介
2005年度に購入した資料

2005年度退任の研究担当者

本学COEプログラムの共同研究に長い間ご協力頂き、ありがとうございました。

COE共同研究員

2006年3月31日付

芦澤 玖美

落合 一泰

須山 聡

鈴木 廣之

宇佐見 義之

丸山 宏

2005年度 神奈川大学21世紀COEプログラム 外部評価の実施

実施日：2006年2月13日、17日

会場：神奈川大学横浜キャンパス21号館304会議室

2月13日に本学COEプログラム外部評価委員である立正大学文学部教授の黒田日出男氏、慶應義塾大学文学部教授の鈴木正崇氏、また同17日には静岡大学情報学部教授の八重樫純樹氏による外部評価が実施されました。



編集後記

活字離れを反映してか、昨年7月、文字・活字文化振興法が施行された。思えば、高校時代の新聞編集から、大学での研究誌の鉄筆によるガリ切り、その後のさまざまな原稿のワープロ、パソコン入力まで、文字・活字による編集作業には随分と慣れ親しんできた。このCOEプロジェクトが、対照的に、現代社会において非文字資料の持つ意味、非文字文化とは何なのかを考える契機になればとも思う。今号で3年目の編集が終わり、次号からは研究成果を中心に、情報発信の場となることを期待したい。(佐野)

今号の特集も前号の国際シンポジウムに引き続き、公開研究会の開催レポートになりました。中国や韓国から招いた先生方の研究報告を、紙幅の関係で詳細とはいかないながら、各報告の要旨がお伝えできていれば幸いです。今後は研究会やシンポジウムについて、本誌で取り扱う機会は増えていきます。速報としてはホームページで、記録としては本誌でお伝えしていきます。(関)